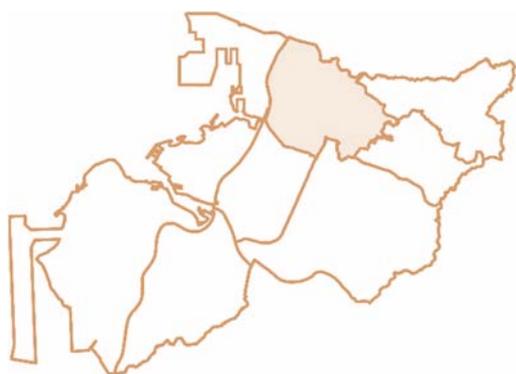


(2) 那覇北地域 まちづくり方針



位置と地勢

本地域は、本市の北部に位置しており、なだらかな高台を中心に安謝川沿いの低地と東側の真嘉比川を抱く丘陵からなります。土地区画整理事業が行われた那覇新都心地区と字安里の境目の一部、安里緑地から羽佐間公園にかけて良好な緑地が残っています。

成り立ち

戦前の本地域は、主に旧真和志村に属し、農地が広がっていた安謝、天久、銘苅、真嘉比と、旧那覇市の泊がありました。泊には、^{ちやうこうてい}長虹堤の首里側の起点となる安里橋（崇元寺橋）や泊港があったほか、商店や路面電車の停留所があり、にぎわいをみせていました。

戦時中は、首里に置かれていた日本軍司令部を防衛するために、日本軍と本島中部方面から侵攻してきた米軍が交戦した慶良間チーヂ（米軍呼称：シュガーローフ）、大道森（米軍呼称：ハーフムーンヒル）があり、沖縄戦の激戦地のひとつとなりました。

戦後、天久、銘苅、上之屋の一帯は、米軍に強制接収され、約 195ha という広大な牧港住宅地区が建設されます。その後、1987（昭和 62）年に牧港住宅地区の全面返還が実現し、那覇新都心土地区画整理事業が実施され、2005（平成 17）年に完了しました。2000（平成 12）年にはまち開きが行われ、以降、大規模商業施設や高層集合住宅などが数多く建設されたほか、新都心公園の整備や沖縄県立博物館・美術館の開館、那覇市消防局・中央消防署や那覇市上下水道局、沖縄総合事務局の移転、モノレールおもろまち駅と古島駅が整備されるなど、返還軍用地の跡地利用によって発展した新しいまちです。

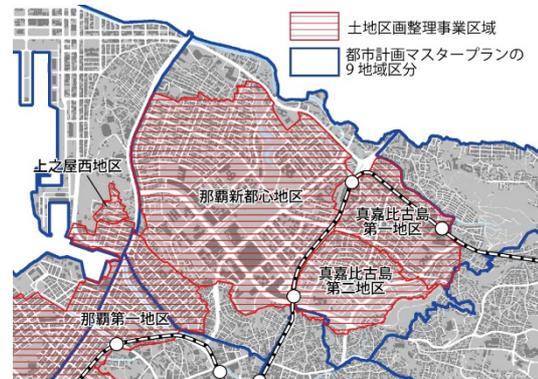
真嘉比・古島第一地区、真嘉比・古島第二地区は、戦後復興のなかでの急激な人口増加を背景に、スプロールにより形成された市街地を良好な住宅地に転換するため、土地区画整理事業が実施されました。それぞれ 1975（昭和 50）年、1988（昭和 63）年に事業が開始され、現在では良好な住宅地が形成されています。

また、本土復帰による医療制度の変革の中で、二次救急をはじめとする医療サービスの需要と供給の不均衡を解消するため、1980（昭和 55）年、第一地区の一画となる古島地区に、那覇市立病院が開院しました。開院から約 40 年が経過し、施設設備の老朽化などにもとない、現在地での建替え事業が進められています。

地域の特性

① 土地区画整理事業により整えられたまちです

本地域は、戦後まもなく戦災復興土地区画整理事業が行われた那覇第一地区（泊1・2丁目）、返還軍用地の跡地利用による那覇新都心地区、より良い住環境を確保するための真嘉比・古島第一地区および第二地区と、大規模な土地区画整理事業が実施された地域です。都市基盤が整備されたこれらの地区の周辺には、字安謝、字安里、安里3丁目、字松川など、狭隘な道路が多く残る地域が隣接しています。



▲ 那覇北地域における土地区画整理事業区域
（「平成29年都市計画基礎調査」より作成）

② 充実した住環境が人気のエリアです

本地域は、戸建て住宅を中心とした低層住宅から、アパートなどの中高層住宅、地上20階を超えるタワーマンションまで、様々な住環境が選択できるエリアとなっています。新都心地区や真嘉比・古島地区では、地区計画が導入され、建物の屋根の形状、垣・柵の作り方などのルールにより、良好な住環境が形成されています。また、小中学校などの教育環境や都市公園が充実し、子育て世代にも人気のエリアです。



▲ みどりがあふれる天久クレッセント（左）
とおもろまちの高層集合住宅（右）

③ 多くの人を訪れるにぎわいのある地域です

本地域には、大規模なショッピングセンターや専門店などが立地しているほか、沖縄県立博物館・美術館、新都心公園などがあり、買い物やレクリエーションなどを楽しむ人でにぎわっています。また、大規模免税店や宿泊施設の立地により、近年では国内外からの観光客も多く訪れる地域となっています。



▲ 多くの人が行き交うショッピングセンター周辺

ワークショップなどからの市民のみなさんの声



真嘉比の住宅地は移住者も多いから、コミュニティの場をつくってつながりを深められるといいなあ。



学生が自習とかで気軽に利用できるスクールカフェみたいな場所がほしい。地域に図書館もほしいな。



バスやモノレールが通っていて公共交通は比較的利用しやすいね。



歩いて暮らせるまちになるには、コミュニティバスや乗り合いタクシーがあるとお年寄りも移動しやすいんじゃない？

モノレール駅を中心とした公共交通や歩行者、自転車の利用環境を向上させて、歩いて暮らせるまちを実現させたいですね。暑い沖縄では、街路樹も必要ですね。



県外から移住した人や外国の方、観光客も多い地域だよ。災害時のことも考えないといけないなあ。



新都心公園は地域の人だけでなく、県内外や国外の方も訪れるような交流拠点として活用したい！



新都心公園が日ごろからキャンプできる場所だったら、周辺住民にとっていざという時の外での生活に適応しやすくなるんじゃないかな？

新都心公園で防災に向けたキャンプとはおもしろいアイデアですね！様々な交流がうまれるように公園の柔軟な利用を図っていきたいと思います。



地域の土地利用の方針

- 真嘉比古島地区における良好な低層住宅地の形成
- ゆとりある緑豊かな低中層住宅地・中高層住宅地の形成
- 副次拠点としての機能強化に向けた土地利用の推進

低層住宅地区

安謝1・2丁目、天久1・2丁目、銘苅3丁目、古島、真嘉比2・3丁目などは、低層の戸建て住宅を主体とし、低層住宅地の住環境に調和した共同住宅が立地する、緑豊かな住宅地の形成を進めます。

低中層住宅地区

字安謝、銘苅1・2丁目、真嘉比1丁目、泊1・2丁目などは、低層の戸建て住宅と調和した低中層の共同住宅が共存する良好な住宅地の形成を進めます。

中高層住宅地区

天久1丁目、おもろまち3丁目では、中高層住宅が立地する都市型居住の土地利用を進めます。上之屋1丁目では、オープンスペースの創出などによる高度利用により、居住機能、商業機能、業務機能が共存する土地利用を図ります。

住宅団地地区

地区計画制度などを活用し、緑化やオープンスペースの確保などにより、周辺の住宅地と調和した良好な住宅団地の形成を進めます。

地域型生活サービス地区

黄金通り（泊中央線）沿道は、日常の生活を支える地域のマチグワー商店街としての土地利用を図ります。

近隣型商業サービス地区

古島駅の周辺は、日用品を扱う店舗、飲食店、診療所などの生活利便施設の集積する土地利用を図ります。

商業サービス地区

再開発地区計画の区域は、広域的な商業機能などが集積する土地利用を図り、魅力的なオープンスペースの創出とあわせた土地の高度利用を進めます。隣接する地区は、中小規模の事業者に対応した商業施設が集積する土地利用を図り、天久安里線沿道は、交通の利便性を活かした商業機能が集積する土地利用を図ります。

業務地区

おもろまち1・2丁目などは、広域的な業務機能などが集積する土地利用を図り、魅力的なオープンスペースの創出とあわせた土地の高度利用を進めます。

地域内幹線沿道地区

天久銘苅線、真嘉比山川線などの沿道は、暮らしの利便性を高める商業機能や業務機能と低中層共同住宅などが共存する複合用途の建築物が立地する土地利用を進めます。

幹線沿道地区

国道58号、国道330号、第2環状線（県道82号線）などの沿道は、低層部の住宅利用が抑制された沿道型の商業施設や業務施設、中高層の共同住宅などが立地する土地利用を進めます。

■副次拠点としての都市機能の誘導

おもろまち駅周辺では、広域的な商業機能、業務機能、文化芸術機能、観光・交流機能、医療・福祉機能など、多様な都市機能の集積を図るとともに、建物用途の複合化や土地の高度利用による魅力的なオープンスペースの創出を進め、副次拠点として機能強化を図ります。

地域の土地利用方針図



土地利用			
低層住宅地区	地域型生活サービス地区	都市型リゾート地区	集落環境保全
低中層住宅地区	近隣型商業サービス地区	流通・産業地区	都市公園等
中高層住宅地区	商業サービス地区	地域内幹線沿道地区	学校等(白枠)
住宅団地地区	業務地区	幹線沿道地区	モノレール

※凡例は各地域共通

4章 地域まちづくり方針

地域の交通体系の方針

- 住宅地内における安全安心で快適な交通環境の創出
- まちづくりと一体となった LRT などの基幹的公共交通システムの導入
- 交通結節点を中心とした公共交通、歩行者、自転車利用環境の整備
- 鉄軌道を含む新たな公共交通システム導入との連携
- 貸し切りバスの乗降場所や待機場所の適正化の推進

■誰もが移動しやすい公共交通ネットワークの体系方針

国道 58 号において検討されている鉄軌道を含む新たな公共交通システムについて、関係機関との連携のもと導入促進を図るとともに、上之屋から副次拠点および中心拠点に接続する LRT などの基幹的公共交通システムの整備推進を図ります。また、これらの主要な公共交通機関の乗り換えの快適性、利便性の向上を図ります。

■路線ごとの道路体系方針①

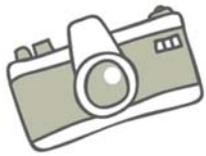
	路線名および路線位置	体系方針
広域的な幹線道路	<ul style="list-style-type: none"> ・ 国道 58 号 ・ 国道 330 号 ・ 第 2 環状線（県道 82 号線） 	西海岸道路や那覇インターアクセス道路の整備により交通流動を分散させ、ボトルネック交差点の改良に取り組むとともに、自動車交通の負荷が軽減される道路においては、公共交通、自転車、歩行者など、人中心のための道路空間へと再配分を促進します。
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 那覇中環状線(天久安里線) ・ 那覇インターアクセス道路 	増加傾向にある都心流入交通の分散を図る道路であり、特に北部からの流入交通の分散を図る重要な幹線で、周辺環境に配慮した整備を促進します。また、LRT などの基幹的公共交通システムの導入を推進します。
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 県道 251 号線（那覇・宜野湾線） ・ 松島松川線 	浦添方面から那覇市への交通の円滑化を図るとともに那覇市内の南北方向交通を処理する幹線道路で、交通特性に応じた多様な移動手段に対応する道路整備を図ります。県道 251 号線は LRT などの基幹的公共交通システムの導入を推進します。
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 崇元寺通り（県道 29 号線） 	市の東西方向を結ぶ重要な幹線道路で、交通特性に応じた多様な移動手段に対応する道路整備を促進します。
地域の幹線道路	<ul style="list-style-type: none"> ・ 天久銘苅線・銘苅真嘉比線 ・ 銘苅泊線 ・ 銘苅 35、38、39、42 号 ・ 真嘉比山川線 ・ 真嘉比松島線、真嘉比中央公園西線 	無電柱化など、景観に配慮した歩道空間の創出を図り、魅力あるまちづくりの誘導を図ります。

■路線ごとの道路体系方針②

	路線名および路線位置	体系方針
主要な生活サービス道路	・安里中央線	字安里の住宅地の生活基盤となる主要な生活サービス道路であり、車両通行を抑制することで、安全安心で快適な歩行空間の整備を図ります。
	・泊中通り（泊中央線）	泊1、2丁目の住宅地の生活基盤となる道路であり、泊小学校の周辺道路となっていることから、車両通行を抑制し、良好な商店街形成が図れるよう、歩行者の安全性、快適性を重視した整備を図るとともに地域の顔となる道路として特色ある整備を目指します。
	・天久29号 ・銘苅6号 ・銘苅37号 ・安里27号 ・上之屋19号などの那覇新都心、真嘉比地区内の道路	歩行者の安全性、快適性を確保し、地域のコミュニケーションの場、また、緑のネットワークを形成するアメニティ性の高い道路として整備を図ります。
	・真嘉比53号 ・古島33号	真嘉比小学校および真嘉比・松島の住宅地の生活基盤となる主要生活道路となっており、歩行者の安全性を重視した整備を図ります。
	・安謝東西線 ・安謝北線	地区の中心的な道路となっており、主要な生活サービス道路として位置づけ、地区の住環境に配慮した安全な道路整備を図ります。
	・安謝小学校北側線	安謝小学校の周辺道路は、魅力ある歩行空間を確保し、安全な道路整備を図ります。

地域の交通体系方針図





NAHAのまちスナップ

～交通編～



- 1. 自転車通行空間 2. 琉球石灰岩を使用したバス停上屋
- 3. シェアサイクルポート 4. カーシェアリング
- 5. 交通結節点（赤嶺駅） 6. 沖縄都市モノレール
- 7. 国際通りトランジットモール 8. 大型クルーズ船の寄港

安全安心な地域形成の方針

- 那覇新都心・真嘉比古島地区における良好な住宅地の誘導
- 身近な生活道路の改良による既成市街地の改善
- 泊地区などの良好な住宅地の保全

基盤整備済地区

地区計画制度を活用している那覇新都心地区や真嘉比古島地区は、地区計画の目標や整備方針にあわせた適正な市街地の形成を進めます。

泊1・2丁目やモノレール古島駅周辺などは、地区計画や建築協定、緑化協定などにより、用途の混在抑制や緑化の推進、街並み景観の形成などの良好な市街地環境の維持・向上を図ります。

基盤改善地区(機能向上型)

狹隘道路の解消やネットワークを構成する主要な生活サービス道路の改良、一定規模の老朽建築物の共同建替え、建築物の更新にあわせた部分的な地区計画制度の活用などにより、基盤の改善を図ります。

防災まちづくり

本地域には、消防局・中央消防署のほか、備蓄倉庫やマンホールトイレなどが整備されている新都心公園（広域避難場所）があります。また、大規模な商業施設や広域的な業務施設などが集積し、多数の人が訪れる地域です。災害発生時に一時的な避難者受け入れのため、事業所のロビー、会議室、ホールを開放するなど、事業者の協力による防災機能の向上や、災害時に観光客がスムーズに避難できるよう、地域住民や事業者の協力により、安全に避難できる仕組みづくりを進めます。

集中豪雨による浸水リスクのある安謝川や真嘉比川の周辺では、主要河川の治水機能の向上のほか、道路や敷地内の浸透機能の強化、緑化を進め、総合的な治水対策を図ります。高潮・津波の浸水リスクのある泊、土砂災害リスクのある上之屋や真嘉比などでは、災害リスクおよび被害軽減に向けた意識啓発を進めます。

避難場所・避難所・樋川・井泉

公園などの避難場所や小中学校などの避難所は、多様な使われ方が可能なオープンスペースの確保、耐震化やバリアフリー化を図ります。また、地域の湧水は、災害時に上水道が使えなくなった場合の飲料以外の生活に必要な水を確保するため、状況把握や保全などの取り組みを進めます。

安全安心な地域形成方針図



市街地形成	防災	その他
集落形態保全地区	浸水リスクのあるエリア	公園・緑地
基盤整備済地区	土砂災害リスクのあるエリア	海・河川
基盤改善地区 (機能向上型)	地域の避難場所 ※	幹線道路
基盤改善地区 (面的改良型)	地域の避難所 ※	計画・構想道路
基盤改善地区 (基盤再生型)	台風・大雨洪水時の避難施設	市街地開発事業区域
マチグワーエリア	地域の樋川・井泉	

※ 避難場所・避難所について…浸水リスクのあるエリアでは、津波・高潮・洪水時を除く。土砂災害リスクのあるエリアでは、土砂災害時を除く。

※凡例は各地域共通

暮らしと交流の方針

- 新都心公園を中心とした緑の軸の形成
- 銘苅川の自然環境の保全と親水化
- 安謝川の浄化と親水化
- 地域に残る歴史・文化遺産を活かした散策路の整備
- 多様な施設の集積を活かした回遊性あるまちづくりの推進

公園・広場・緑・水辺

緑やレクリエーションなどの拠点となる公園は、柔軟な管理・運営により、市民により一層親しまれる公園を目指します。また、新都心公園は、貴重な水辺空間の保全と親水空間の創出を図ります。

真嘉比川や銘苅川などは水辺の軸として、水質浄化とあわせた自然化・親水化や緑化を進め、生物にやさしく、訪れる人が水辺を身近に感じることでできる親水プロムナードの創出を促進します。また、豊かな湧き水によって育まれたシグルクガーなどの地域に残る水辺空間は、都市における貴重な自然環境として水源を維持するため、水辺周辺の緑地の保全を促進し、市街地の緑化や保水機能の向上などを図ります。

幹線道路や主要な生活サービス道路、モノレールの桁下などは、積極的に緑化を進め、総合公園である新都心公園を核とした水辺と緑をつなぐ市街地の緑の軸として、生物の移動空間のネットワーク化やうるおいのある歩行空間の創出を図ります。また、公園や街路樹による緑の確保を進めると同時に、建築物の用途の複合化や土地の共同利用などにあわせて、地上階のゆとりある空間と南国らしさを感じる花や緑の確保などを促進します。

景観・眺望

市街地における貴重な水辺空間として、安謝川や真嘉比川の親水性を高めることで、水辺に意識を向けた景観形成を誘導するとともに、河川と周辺の緑地とが一体となった景観形成を図ります。

公共交通は、車両や駅舎などの各施設を含め、「那覇らしさ」を活かしたデザインとなるような景観形成を図ります。また、モノレールの桁下や中央分離帯においても、亜熱帯性植物の花木を用いるなど、植栽に工夫を図り、良好な道路景観の形成を図ります。

泊中央線は、亜熱帯庭園都市の印象づくりや都市活動における移動の快適性向上のため、街路樹による連続した緑陰の創出や特色ある整備を図り、屋外広告物や公共サインのデザイン誘導などにより、地域の顔となる景観形成を図ります。

安里緑地や黄金森公園では、中心市街地が一望できる貴重な眺望点の確保を図ります。

歴史・文化遺産・歴史の散策路

銘苅墓跡群などの指定文化財や、崇元寺御嶽、組踊の題材となった銘苅子の伝説に関連するシグルクガーなどの地域に残る歴史・文化遺産は、まちづくりの要素として保全・活用を進め、歴史の散策路と一体となった歴史・文化とふれあう場の創出を図ります。景観資源として指定されているおもろまちのトックリキワタや崇元寺前のハウオウボクなど、地域に残る古木や大木は、市街地にうるおいを与えると同時に、地域の歴史を継承する貴重な資源として積極的に保全を図ります。

交流スポット

多様な市民活動の拠点となっている新都心公園は、周辺の商業施設や歴史文化施設と一体となった魅力的な交流スポットとなるよう取り組むとともに、施設間をつなぐ快適な歩行空間と豊かな緑陰の形成に努めることで、地区内の回遊性を高めます。

黄金通りは、徒歩圏の生活サービス機能を有する交流スポットとして、身近なマチグワァ商店街や地域のサードプレイスとしての機能の創出を図ります。また、古島駅周辺は、公共交通の利便性を活かした駅周辺の商業機能を有する交流スポットとして、中規模の小売店や特色ある専門店が建ち並ぶ、生活利便機能の創出を図ります。おもろまち駅周辺や天久1丁目などは、広域的な商業機能を有する交流スポットとして、都市機能の強化を図ります。

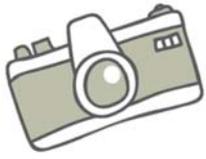
小中学校やなは市民協働プラザなどの公共施設は、コミュニティの拠点として積極的に開放を進めます。また、施設のリニューアルなどの際には、交流スポットとして利用しやすい機能配置や施設整備を図ります。本市の企業支援の拠点となっている那覇市IT創造館やMECAL45（なは産業支援センター）などは、企業の交流スポットとして、より活用し易い施設となるような整備を図ります。

暮らしと交流方針図



緑・水辺	歴史・景観	交流スポット
公園・緑地	歴史・文化遺産 (馬場道跡などの場合)	歴史文化 スポット
自然緑地	集落景観	自然・ レクリエーション スポット
緑の軸	都市景観形成地域	コミュニティ スポット
水辺の軸 (河川・海)	景観資源	商業交流 スポット ・広域的な商業機能 ・駅周辺の商業機能 ・徒歩圏の生活サービス機能
公園空白地域	シンボルロード	交通交流 スポット
	地域の顔となる道路	
	歴史の散策路	
	眺望	

※凡例は各地域共通



NAHAのまちスナップ

～公園・水辺空間編～



- 1.新都心公園
- 2.国場川
- 3.安謝川
- 4.久茂地川
- 5.うみそら公園
- 6.久茂地公園